

トップニュース

本願寺新報

hongwanji journal

9月10日(木曜日)

毎月1日・10日・20日発行

発行所 本願寺新報社

京都市下京区堀川通花屋町下ル 浄土真宗本願寺派(西本願寺) 本願寺出版社内
〒600-8501

電話 075(371)4171(代) / FAX075(341)7753

豪雨被害の熊本で追悼法要 「四十九日」に悲しみ分かち合おう

「令和2年7月豪雨」の発災から「四十九日」を迎えた8月21日を中心に、熊本県の人吉・球磨地域で犠牲者を追悼する法要や集いが営まれた。復旧が遅れ、いまだに日常が遠い被災地。「仏壇を流されて手を合わせる場さえない」という遺族や被災者の悲しみに心を寄せざる僧侶の姿があった。(3面に関連記事)

人吉別院で四十九日法要

門徒5人が亡くなった熊本県人吉市・人吉別院(河村信昭輪番)で8月21日午後、四十九日法要が営まれ、入所していた球磨村の高齢者施設で亡くなった女性の遺族が参拝した。同別院は、豪雨で事務所が床上浸水する被害を受けたが、初七日から7日ごとに合同の中陰法要を営み、遺族が手を合わせてきた。四十九日に参拝した遺族は「施設と連絡が取れず、母の死を知ったのは水害から3日後だった。ショックは大きかったが、別院さんで同じようにご家族を亡くされた方や僧侶とおつとめの時間をともに過ごさせてもらい、痛みや苦しみを分かち合ったださるような気がした」と話した。

また同日には、人吉市の自宅で亡くなった同別院門徒の西秀雄さん、タツ子さん夫妻の葬儀が、四十九日法要と合わせて葬儀場で営まれ、同別院の僧侶が導師を務めた。

停電地区に花火の明かり

8月23日には、人吉市や球磨村、ボランティアなどが協賛した追悼法要が、球磨村の壽泉寺と、球磨川の氾濫で一部が流失した人吉市の西瀬橋で営まれた。午後7時50分からおつとめが始まり、地元ボランティア有志が約100発の花火



8月23日には、人吉市の西瀬橋(写真上)と球磨村の壽泉寺(同左)で追悼法要が営まれ、亡き人を偲んだ。おつとめ中には花火が打ち上げられた

心寄せようと 有志僧侶が鐘

「四十九日にあわせて被災地に心を寄せよう」と、8月21日正午から、災害支援を続ける熊本教区内の僧侶有志が呼びかけ合い、自坊の梵鐘や喚鐘を撞いた。熊本県甲佐町・皓月寺の栗田国彦住職(60)は災害後、泥だしのボランティアで訪れた人吉市を思いながら、梵鐘を撞いた(写真)。「熊本地震で被災し、助けていただいた思いから自然と体が動いた。毎日でも手伝いに伺いたいが、そうもいかず、せめて鐘だけでも撞かせてもらおうと思った。離れていても被災された方のためにできることはあるはず」と話した。

打ち上げた。法要を企画したのは人吉別院の平塚真邦さん(32)。被災直後から門徒宅などで復旧活動を手伝う中で、「ご本尊が流されてお参りができない」という相談を受けたのがきっかけ。花火は、ボランティア仲間や行政と相談し、復興への願いと夏休みの子どもたちへの思い出作りにと、打ち上げることになった。球磨地域の本派寺院8カ寺をはじめ、他宗の寺院にも参加を呼びかけ、被災者には避難所にチラシを配り告知した。両会場ともに、焼香台を



設け、阿弥陀経をつとめ、花火が夜空を照らした。壽泉寺の勝枝之総住職(66)は「周辺にはまた停電が続く地域がある。真っ暗な集落に花火の明かりが灯る光景に、言葉にならない寂しさを覚えた」としながら、「隣町の避難所から夕